

舉兩得ノ法デハナイカト思フ是等ノ學生ヲ教導スル人ガ此様ニ一面ハ學問ヘ對シテ忠實デ又一面ハ其學ヲ受クル當人ニ對シテ親切デアッタナラバ實ニ頼母シキ限リナレドモ私ハ不幸ニシテ今日其レ程マデニ手ノ届イタ教導者ヲ容易ニ見出し得ナイノヲ悲マザルヲ得ナイ、今日デハ此學生ハ體質ガドウデ嗜好ガドウデ性質ガドウデ又其家ノ經濟狀態ガドウデアアルカラ其本人ハドノ様ナ方面ヘ向ケタ方ガ學問ニ取ツテモ當人ニ取ツテモ雙方利益デアアルト云フ様ナ親切ナ遣リ方ハ餘リ無イ様ニ私ニハ見エル又私ニハ教導者ガ學生ニ對シテ右ノ様ナ拔カリノナイコトハ一向ニ考慮中ニハ加ヘズニタバチヨット考ヘテ此レヲ研究セヨ彼レヲ研究セヨト其人ノ後來ノコトナドハ殆ンド眼中ニ置カズニ徒ニ課題シテ居ルノデハナイカト見エル節モアル又中ニハ先生自身ノ爲メニ學生ガ犠牲ニナツテ何カラ研究シテ居ル様ナコトモナイデハナイカト思フコトモアル私ハ學生ノ養成ニハ其ンナ不親切ナ遣リ方デハ仕方ガナイト思フ私ハモット學生ニ對シテ溫カナ考ヲ持ツノガ必要デ即チ學生本位デナケレバナナルマイト思フ今其學生ノ性質嗜好家計ナドノ種々ノ點ヲ考慮ニ加ヘテ其學生ヲシテ適當ニ研究セシムレバ卒業後後來世ニ立ツテ働ク時ニ皆適處ヲ得テ適當ナカラ充分ニ發揮スルコトガ出來從テ我植物學ノ發達ガ庶幾セラル、譯ダト思ヘドモ今ノ處デハ適處ニ適材ガ配置セラレテ居ナイコトガ多イカラ萬事ニツケテ誠ニ遺憾ナ點ガ尠クナイ學生養成ノ任ニ當ル責任者ハ當サニ深キ考慮ヲ其間ニ致スベキデアル (未完)

○日本植物ノ學名上ニ現ハレタル佛國ノ士ウエルニー氏

千葉醫學專門學校醫學士 今井忠宗

邦產植物よかばら屬ノ一種 *Cynanchum Vernyi*, Fr. et Sav. (= *Vincetoxicum Vernyi*, Fr. et Sav.) 延胡索ノ一種 *Corydalis Vernyi*, Fr. et Sav. 及 *ユウキ* のあしがた屬 *オウゴン* の *Ranunculus Vernyi*, Fr. et Sav.

日本植物ノ學名上ニ現ハレタル佛國ノ士ウエルニール氏

等ノ學名ハ何レモウエルニール氏ヲ記念センガ爲ニフランシエー(A. FRANCHET)及ビサヴァチエー(L. SAVATIER)兩氏ノ命名ニ係ルモノナリ ●然レドモウエルニール氏ハ造船技師ナルヲ以テ同一場所ニ勤務ノ關係上單ニ

サヴァチエー氏ノ植物採集ヲ補助セシ止マリ植物學ニ深キ趣味ヲ有セザリシモノ、如シ ●フランソア

ニ生レ

École Polytechnique(諸藝學校)ヲ卒業シ技師 Ingenieur トナリ佛國海軍大技士ニ任ゼラレ支那上海ニ

アリテ砲艦製造ニ從事シ居リ任了リ歸國セントスルニ當リ我邦ニ横須賀製鐵所 Arsenal D'Iokosuka 設立ノ舉

アリ其幹旋者佛國公使ロッシニ氏(L'ambassadeur M. ROCHES)氏ノ推薦ニヨリ慶應元年正月横須賀ニ來リ製鐵

所設立方案ヲ議定シ其設立ニ努メ一千八百六十五年九月一日即チ慶應元年七月十二日年俸一萬弗旅費日額六弗

ノ支給ヲ受ケ横須賀製鐵所首長 Le Directeur de l'arsenal ヲ拜命シタリ時ニ年齒實ニ二十有九ノ壯年ニテアリ

キ氏ハ製鐵所器械材料ノ購入技師技手ノ雇入ノ爲メ一旦歸國シ慶應二年四月二十六日横須賀ニ歸着シ爾來横須

賀製鐵所官舎ニ居住シタリ 同氏官舎ノ寫眞ハ前號ニ在リ

●氏ハ在横中製鐵所主任トシテ技術方面ヲ監督シ且技師技手養成

ノ爲ニ附屬學校ヲ設ケ且當時本邦ニハ他ニ有力ナル機械製作工場ナカリシヲ以テ艦船造修ノ外燈臺築造、浮標

設置、其他諸機械製作ヲモナシ日本ノ爲ニ貢獻セシ所尠ナカラザリキ ●政府ハ其功ヲ勞ヒ明治四年十月

五日ウエルニール及ビチボデー兩氏ニ對シ皇城內山里離宮ニ於テ内謁見ヲ許サル ●明治八年三月五日明治

天皇横須賀造船所(明治四年四月改稱)ニ親臨シテ清輝艦ノ進水式ヲ舉行アラセラレウエルニール氏ニ優渥ナル

勅語ヲ賜ヒ白縮緬一疋ヲ下賜セラル

●明治八年十二月三十一日佛國公使サンカンタン氏ハ造船所ニ最早

外人ノ要ヲ認メザルニ至リシヲ以テウエルニール氏ヲシテ辭任ノ上顧問タラシムルコト、シ其結果海軍少將兼大

丞赤松則良本所長ニ補セラレ明治九年一月十二日事務引繼ヲナセリ ●是ヨリ先キ三條太政大臣ハ頃日海

軍大輔川村純義ヨリ稟請シタルウエルニール及ビサヴァチエー兩氏謁見、勅語及勳章賜與ノ件ヲ上奏シ勅許ヲ得

タルニヨリ海軍省ニ移命シ明治八年十二月三十日ウエルニー及ビサヴァチエー兩氏ヲ宮内省ニ出頭セシム

●同日午前九時海軍少輔伊集院兼寛及ビ主船少匠司清水誠同伴、坊城式部頭誘導謁見ノ式ヲ了ス ●

ウエルニー氏 (F. L. VERNY.)



ウエルニーニ賜ハリシ勅語『我邦造船所ヲ創設セシ以來十一ヶ年ノ久シキ汝首トシテ其職ヲ奉ジ能ク其力ヲ效シ諸場ノ建築及我新造艦船ヨリ内外修理ノ艦船其他ノ製造事業ニ至ル迄一々之ヲ擔當シ遂ニ今日ノ成績ヲ見ル是レ實ニ汝ノ功勞朕深ク之ヲ嘉賞ス且汝ガ歸路恙ナキト將來ノ幸福トヲ望ム』 ●ウエルニー奉答

文、清水少匠司譯『天皇陛下ニ奉答ス 天皇陛下ニ奉職中數多恩惠ノ勅語ヲ拜受シ奉リ今般我政府ニ歸任セントスル機會ニ臨ミテ 御満足被爲

在候段被 仰出難有×天皇陛下ニ奉謝候 恐惶謹言』

及ビサヴァチエー兩氏ノ爲ニ饒宴ヲ延遼館ニ開キ席上太政官ノ命ヲ傳ヘ勳章贈與ノ事ヲ二氏ニ傳達ス當日陪宴

者ハ三條太政大臣、伊集院海軍少輔、遠武主船助及本所雇佛人デュッボン、フランソアー、ジュウエット、サルダーニシテ清水少匠司譯官トシテ主客ノ間ヲ周旋シタリ、當日ウエルニー夫人、サヴァチエー夫人、モーリス、ウエルニー等招待セラレシモ何レモ病ヲ以テ陪宴ヲ辭シタリ

●同日宮内省ヨリ御下賜品アリウエル

ニー氏受領品ハ書棚一個花瓶一對、ウエルニー夫人受領品ハ琥珀織二卷ナリキ

●明治十年一月二日ウエルニー氏歸國ノ途ニ上レリ當時ウエルニー氏ハ佛國勳章「シニヴアリエー、レジョン、ドンノール」Chevalier Légion d'honneur ヲ佩用シタリシガ明治十年一月二十三日ニ勳二等ニ叙セラレ旭日重光章ヲ授ケラル

●ウエルニー氏ハ西曆千九百〇八年（明治四十一年）五月二日故郷ニ死ス享年七十有二

ウエルニー氏寫眞ハ大正六年三月工學博士櫻井昇三殿ノ好意ニテ在佛國ウエルニー氏ノ妹ヨリ得テ之ヲ複寫シタルモノナリ

●横須賀在住佛國人ハ屢撮影セシモウエルニー及ビサヴァチエー兩氏ハ何レモ別室ニアリテ撮影ノ機會甚ダ少ナク其寫眞ハ何レモ横須賀海軍工廠ニ存在セザリシ而シテ首長ウエルニー氏ノ寫眞ハ今上天皇陛下葉山御用邸ニ御避寒ノ砌大正六年二月十九日横須賀海軍工廠ニ御臨幸ノ際觀覽ニ供セント八方搜索セシモ遂ニ得ルコト能ハザリシト云ヘリ然ルニ其後兩氏ノ寫眞發見セラレ廣ク之ヲ頒ツコトヲ得タルハ吾人ノ實ニ欣喜ノ至リニ堪ヘザル所ナリ

引 證

(一)横須賀海軍工廠、横須賀海軍船廠史、第一、第二卷（大正四年） (二)松村任三、帝國植物名鑑、下卷二冊（明治三十八、四十五年） (三) HAINEMANN, The World's History, Vol. II, (1904) (四)佐波一郎氏所藏文書數篇 (五)佐波一郎、木村作助兩氏談話 (六)賞勳局勳章簿冊

本稿ヲ公表スルニ當リ起草材料蒐集ニ關シ石原宮内次官閣下、田中横須賀海軍工廠長閣下、工廠副官佐々木海軍中佐殿、佐波一郎殿、木村作助殿ノ御好意乃至御幫助ヲ感謝ス、殊ニ横須賀海軍工廠副官海軍中佐佐々木海次殿ヨリハ所載寫眞ノ送附ヲ受ケタリ茲ニ記シテ其御芳志ヲ深謝ス